

令和7年度 印西市民アカデミーだまひ 第20号

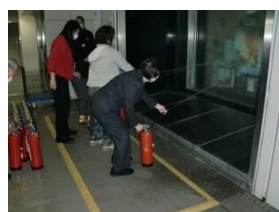
講座20：戸定邸について学ぶ・防災について学ぶ

3月4日（水）午前中に、過去放映されたNHK大河ドラマ「晴天を衝け」で注目を浴びた徳川昭武の戸定邸・庭園、戸定歴史館（松戸市）を訪問しました。戸定邸は、1884年（明治17年）水戸藩最後の藩主だった徳川昭武が建設したもので、大名屋敷を伝える数少ない貴重な木造建築です。最上等の杉材をふんだんに使う一方で装飾を最小限に留めた空間には、静かな気品が漂っています。純和風、木造平屋一部二階建てで、増築を経て、現在は9棟が廊下で結ばれ、部屋数は23を数えます。その戸定邸の一部である「使者の間」が終戦直後に切り離されてその後行方が分からなくなっていました。1996年に印西市発作に移築されていることが分かり、1997年に解体し、不足する材料を同じようにそろえたりして普通の工法で復元されました。戸定邸表座敷棟の南と西には芝生の庭が広がります。徳川昭武が建物との調和に心血を注いだ庭園です。洋風技法による芝生面を真南から東側へと連なるコウヤマキと西北部のアオギリが木立をなしてはさみ、南西方向の松の木立越しに東屋があるもう一つの庭園へとつながっています。洋風技法による芝生面は我が国現存最古で、樹木の木立を主要景観に取り入れる手法は類例がありません。戸定歴史館は、昭武の遺品を中心とする松戸徳川家伝来品、徳川慶喜家伝来品、1867年パリ万国博覧会関係資料等を展示しています。徳川昭武が将軍名代として派遣された万国博覧会に関する資料や幕末から明治にかけての古写真、戸定邸の歴史を語る文書や調度品、慶喜亡くなるまで手元にあった彼の遺品などを順次公開しています。パリ万国博覧会に派遣された徳川昭武一行がマルセイユで撮った記念写真には、渋沢栄一も映っており当時の様子を伝える貴重な一枚です。前回の講座にて「使者の間には、ある“縁起の良い生き物”の姿が彫られているそうです。現地での答え合わせが楽しみです。」とありましたが、答えは蝙蝠（こうもり）でした。

午後は、近隣にある千葉県西部防災センターに向かいました。当センターは、災害から暮らしや町を守るための情報や体験を楽しみながら学ぶことができる施設です。体験ツアーに参加し、改めて防災に対する意識を高めることができました。風水害の体験では、実際の台風の状況（降雨、風速30m）を体験しました。煙避難体験では、煙が充満した室内で避難経路に沿って進行するのですが、出口が分からず戸惑う場面もありました。



▲戸定邸見学



◀西部防災センター見学